

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本とイランの温泉観光
Author(s)	タバタバイ, トウーバ
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 28期 : 45 - 59
Issue Date	2013-11-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038705
Right	
Relation	



日本とイランの温泉観光

タバタバイ・トウーバ

はじめに 一 研究の背景と目的

世界で最も美しい国の一つであるイランには、数々の観光地と数千年の歴史がある。この国の代表的な観光地であるペルセポリスには壮大なモニュメントがある。

また、アルボルズ山脈に登り、ズハフェズの廟で紅茶を飲みながら、ズハフェズの占いを受けることができる。春と夏にはカスピ海で泳ぐことができ、秋と冬にはキシューの島で泳ぐことができる。

モスクの壁や天井などに見られる美しいタイルの装飾や小さなつぼに施した装飾は逸品である。ブロンズを叩いて作った皿や、器、つぼに釉薬を塗り焼き、さらにエナメルで装飾を施し、何度も焼いて完成させる。一つ一つ手作りであり同じものは存在しない。

建築・絵画・手織物・陶芸・書道・金属工芸・石彫などの分野で技芸の修養が続いている。その特徴でイランは伝統工芸品の多様性と真正性の点で、世界トップ3ヶ国に入っている。イランとイランの人々の異なる文化や宗教は、他の国の人に特別な体験をもたらすと考えられる。

イランの面積は1640195平方キロメートルで、北にアゼルバイジャン、アルメニア、トルクメニスタン、東にパキスタン、アフガニスタン、西にトルコ、イラクと境を接する。またペルシア湾をはさんでクウェート、サウジアラビア、バーレーン、カタール、アラブ首長国連邦に面する。日本でイラン出身であると言うと、「いつも暑くて大変だったでしょう」とよく言われるが、イランの首都テヘランは東京とほぼ同緯度に位置しており、四季もある。しかし、東京と比べるとテヘランの春と秋は短く、4月上旬では既に暑く、12月には大抵初雪が降る。テヘラン北部にそびえるアルボルズ山脈の冠雪は、それよりもっと早くから見る事ができる。

イランでは美しい自然と温泉があるが、他国の人々はこのことをあまり知らない。世界中の人々が持つイランのイメージは、いつも不安定な政情で砂漠ばかりであると思われる。

しかし、イランの国土は大きいため、多様な気候があり、蒸し暑い地域、乾燥した地域、冷涼な地域がある。このため多くの観光に適した地域がある。そして驚くことに、ほぼどこでも温泉がある。特に北部に多くあり、美しい自然もあることから、行ってみたいと考える人がもちろんいる。しかしイランは観光からの収入は低い。

表 1 : 観光によるイランの収入

	2009	2010	2019	2020
イランへの観光客からの収益	輸出の 11.7% (10.3 億ドル)	輸出の 2.5% (24 億ドル)	輸出の 11.6% (243 億ドル)	輸出の 2.4% (51 億ドル)
投資	総投資の 3.7%。40 億ドル相当	総投資の 3.2%。34 億ドル相当	総投資の 2.6%。90 億ドル相当	総投資の 2.8%。76 億ドル相当
直接雇用率	総就業の 8.3%。598000 人の雇用	総就業の 1.6%。594000 人の雇用	総就業の 2.6%。771000 人の雇用	総就業の 2%。726000 人の雇用

出典 世界評議会トラベル (WTO)

(<http://www.tebyan.net/newmobile.aspx/fash/index.aspx?pid=151318>) 2013/08/20

表 2 GDP に占める観光産業

観光産業の GDP 成長率	2010	2020
中東	0.1 パーセント	5.2 パーセント
世界	0.5 パーセント	4.4 パーセント
イラン	3.9 パーセント	3.8 パーセント

出典 世界評議会トラベル (WTO)

(<http://www.tebyan.net/newmobile.aspx/fash/index.aspx?pid=151318>) 2013/08/20

観光産業の顕著な特徴の一つは雇用への直接的および間接的影響である。

表 1 が示しているように 2009 年では、598000 人々が観光産業で雇用されており、労働者の 8.3% を占めている。世界評議会トラベルの予測によると、10 年後、この業界は 771000 人の雇用があるが、イランの全労働者のわずか 2% を占めるにすぎない。

表 2 に観光産業の実質 GDP を示す。観光による経済的影響を 181 カ国で評価する世界旅行観光評議会 (WTO) は、イランの観光による経済的影響を 2020 年までには低位に推移するとの予測をしている。一方で、中東では、2020 年まで空港容量を 300 万人に増加し、2020 の新しいホテル建設が予定されている。ヨーロッパの国の中では特にフランスとイタリアが観光誘致でトップである。イランの観光の状態はますます悪くなるのだろうか。なぜイランの観光地が世界中に知られていないのだろうか。

これらのことから本研究では、温泉観光が、今後のイランの観光産業に影響を及ぼす要因と温泉観光の開発の方法について考察したい。また、観光の歴史的展開と温泉観光の歴史を概観し、日本の温泉の特徴と温泉観光開発の成功事例を分析し、イランの温泉観光開発への提言を述べたい。

1. 観光の歴史の変遷

昔から人は購買、レクリエーションあるいは歴史的な名所を訪問するために、様々な所に出かけており、彼らはしばしばグループで旅行していた。「ガイド」という人は、そのグループを引率していた。車輪が発明された後、道路が整備され、バビロニア人、エジプト人、ペルシア人、そしてギリシャ人がその先駆者だった。また、ローマ帝国は「観光」を確立した国の一つだった。

古代において、世界において旅をする要因の一つは絹や香辛料などの交易品を東から西へと出荷することであった。シルクロードは、この目的のために構築された。13世紀にマルコポーロがシルクロードを通じて、イタリアから中国へ旅をし、イラン、インドをはじめ、様々な国を旅行した。その後、旅行する人々が増えてきた。

交通機関と旅行のインフラが整備される前は、旅行をできるのは貴族のみであった。しかし交通機関の発達とともに、旅行する人々が増えた。つまり観光の発展に最も大きな影響を与えたのは、交通機関の発達だった

トーマスコック牧師は、1841年に大きなツアーグループと旅行代理店の創設者として紹介されている。当時一番重要な交通機関は鉄道であった。そこで彼は鉄道のチケットの支払いに、割引システムを導入したり、プライベートなレクリエーションの場所で参加料を無料にしたりという様々なサービスを行った。その後、多くの人が彼を模倣し、ポリテク観光協会が設立された。そしてロンドンでは、コーキンズが、主要な南部沿岸の観光地域となった。19世紀に入ると、鉄道の拡大によってグレート・ブリテン沿岸の町は、大きな町になっていった。

(1) 観光事業の種類

人々が特別な目的で旅行することは産業の発展とともに労働者階級にも拡大した。労働者は労働時間外の連休などの自由時間を活用し、まだ行ったことのない場所を訪問し、遺産を見たり、異国の料理を食べるといった観光旅行をするようになった。そのため、20世紀以降は、アメリカ諸国では総生産と消費が増加していき、観光産業の拡大と共に電車のみならず飛行機やホテルの利用も拡張していった。その後、レクリエーション観光、医療観光、ビジネス観光やサッカー、スキーというスポーツの観光など様々な観光が行われるようになった。

(2) 農村観光

昔、農村の観光産業を行うには、交通問題や衛生問題などがあったが、現在は農村地域では観光が発達すれば発達するほどその問題が解決され、観光に関わる仕事も増えている。近年、農村観光は増加してきており、スペインの農村部の大半では、主な経済活動の一つとなった。農村がさらに発展するためのツールとして、観光産業は現在の市場メカニズムに適応する必要が高まってきた。

観光産業は、その地域の競争力、観光客となる消費者とのコミュニケーションやプロモーション手法によって影響されるようになってきている。なぜならこのような地域を訪れる観光客は詳細な情報を知りたいと考えるようになってきている。そのため、マーケティングや販売促進キャンペーンを計画したり、特定の農村地域で効果的な投資判断を行ったりする知識は、政府、観光機関および個々の観光事業に有効である。都市や海辺の観光と同様に、農村観光の魅力は、観光スポットや施設の範囲とそれらの内容である。最近、農村部では、多様な種類の宿泊施設の供給が大幅に進み、多様な場、ケータリング、活動が提供されてきた。したがって、特定の農村地域の経済と社会の発展を計画するために、それらの地域にある既存の農村宿泊施設について多様な消費者の特性や好みに関する情報を提供する必要が高まっている。

(3) 途上国の観光

観光産業は現在、各国において主要な収入源として認識されている。しかし、他方では、素晴らしい観光地があるにもかかわらず、観光産業からの収益が低い国も多くある。例えば、途上国では観光地が多くあるものの、それによる収入が低いことが多い。それらの国ではまだ観光産業と観光経営に関する基盤が十分整備されていないため、素晴らしい観光地があるにも関わらず、大勢の人に知られていない状況にある。

観光客にとって、一番大切なことは安全性である。先進国は安全な地域だが途上国は危険だと考える人々が多い。途上国に対してはこういった悪いイメージを持つ人がたくさんいる。しかし、途上国だけではなく、先進国にあっても様々な問題が存在し、あまり観光客が行かない地域もある。例えば、日本では福島県の温泉が有名であり、一年中多くの観光客が温泉を利用していたが、2011年の震災以後は、観光客が激減してしまった。

現在は、マスメディアが国のイメージ作りに大きな影響を与えており、マスメディアによる様々な広告によって良いイメージを作ることが出来る。例えば、今の福島についてドキュメンタリー映画を作成したり、福島にかかわる番組や色々楽しい番組を放送してテレビで多くの人に見せたらよいと思われる。適切なマネジメントと統計情報を用いて、これまで観光経営に成功した国をモデルとして調査すれば、よい示唆が得られるだろう。

2. 世界と日本の温泉

太平洋を取り巻く環太平洋火山帯をはじめ、火山帯には、高温の湯量豊富な温泉が多く分布している。ギリシャでは硫黄泉に入浴していたという記録がある。ローマで有名なカラカラ大浴場をつくったローマ人は、温泉を好み、古代ローマ帝国時代にヨーロッパ各地で温泉を開発し、傷病者に温泉療法を広めたといわれている。ローマのカラカラ大浴場では、談話室からの景色、12万平方メートルの面積にプールと浴室の他、遊歩ホールやスポーツ施設、そして読書室が設置されていた。世界では、一般的に温泉プールや露天風呂には、水着で入り、水泳とともに日光浴を楽しんでいる。温泉療養については、19世紀から研究が進み、過去の経験と医学的研究の結果、適応症も明らかにされ、慢性病の治療に利用されている。温泉での治療は、飲泉や入浴というものだけでなく、日常の健康管理に対しても指導が行われている。

ヨーロッパには、地中海火山帯がイタリアからギリシャ・トルコにかけて伸びていて、ベスビオ、ストロンボリ、ブルガリノ、エトナなどの有名な火山を生み、多くの高温泉を産み出している。温泉浴、温泉プールなどの温泉関連施設だけでなく、遊歩道、病院、ホテル、野外・屋外の運動場などはもちろん、図書館、博物館、コンサートホール、社交場などの文化施設も併設されている。中国では、胃腸病などの治療に温泉が用いられる。

日本人ほど温泉の好きな国民は世界中ではないと言われており、1年間に1億人以上の人が利用しているという。日本では火山が多く存在するため、温泉も多くあるのだが、日本人はいつ頃から温泉を利用するようになったのかは定かではない。

石器時代の遺跡から温泉を使っていた形跡が見つかっている。古代時代では温泉は病気を治す不思議な水として神の湯と崇められていたと言われている。奈良時代に仏教伝来の影響を受けるようになった。仏教では沐浴の功德を説いているため、寺院で施浴が行われ温泉開発も僧侶によって行われた。鎌倉時代には、各地の温泉地を旅した歌が多く詠まれている。この時代は、主に僧侶や貴族、武士たちが遊興や湯治のために各地に出かけていたようである。戦国時代には戦いで傷ついた武士の療養地ともなっていた。

江戸時代には温泉の利用者は一変した。今まで特権階級だけのものだった湯治場は庶民の出入りも許されるようになり、温泉へ行くことは娯楽色が強くなっていった。その後、明治時代に入ると、医学の発達につれて温泉地も開発され温泉の周りにホテルが建ち多くの温泉地が観光地へと変化した。

日本の温泉には、他国のものと同様に、マナーがある。例えば温泉に入る前には、身体を洗ってから入る。洗い場がない場合は、掛け湯をしてから入る。これはお湯を汚さないためであるが、身体をお湯に慣れさせる目的もある。タオルを湯船に入れない。これも基本的なマナーである。もちろんこれもお湯を汚さないようにするためである。髪の毛が長い場合は、お湯に髪の毛が浸からないように束ねておく。また、泳いだり飛び込んだりはもちろん禁止である。

環境省が定める「国民保養温泉地」「国民保健温泉地」として指定されている温泉地を見てみるとそれらの指定温泉地は、安全でお湯の温度も入浴に適したも

の、周辺環境が良い事など、細かな基準を達成して指定されている。これらの温泉地は肌にいい温泉、神経痛に効く温泉など、目的となる効能がはっきりしているものが多く、温泉を選ぶ際の参考に有効である。

例えば、単純温泉は最もポピュラーな温泉だ。クセのない温泉で、肌に刺激の少ないのが特徴である。その中で pH8.5 以上のものをアルカリ性単純温泉と呼ぶ。温泉成分表の一番上には、水素イオン濃度が表示されている。アルカリ性の温泉はぬめりがあり、美人湯として知られている。人の肌は通常酸性だが、なぜアルカリがいいのかというと、アルカリは石けんと同じで油脂を溶かす働きがある。したがってアルカリ性の温泉に入ると、皮膚の表面についていた余分な皮脂が自然に落とされるのである。このため、肌の新陳代謝が活発になり、美肌になる。しかし pH が高すぎると逆に乾燥しやすくなるため注意する必要がある。

含鉄泉というのは、鉄イオンが含まれる温泉であり、空気に触れて酸化すると赤みがかかった色になるため、酸化した成分が血のように見える。これは貧血などに有効だと言われている。

各泉質の効能は必ず効果があるというものではない。各地の温泉によって成分の濃さにも差がある。

温泉には適応症と同時に、禁忌症もある。温泉は健康にいいものというイメージだが、健康になれるとは限らないのである。禁忌症というのは、この症状の人はこの温泉での入浴は禁止という意味である。例えば、急性疾患（特に熱がある時）、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性の疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中（特に妊娠初期と末期）が禁忌症である。

日本三名泉（有馬温泉、草津温泉、下呂温泉）をはじめ、日本の温泉では、入浴方法の種類が多い。例えば温泉施設にある内湯エリアでは、エアロビ流水浴—パイプ浴、寝呂—電気風呂、打たせ湯、ハイδροメイズ浴、源泉浴、足湯、ジェットバス、気泡浴、腰掛け湯など、様々なものがありリラックスできる。またサウナエリアでは、高温による大量の発汗により新陳代謝を活発にし、美しく清潔な素肌を甦らせる。

もう一つのお風呂の種類が露天風呂である。800 年前、平安時代の奈良に公衆浴場と呼ばれる場所が登場した。そして、露天風呂は平安時代から、鎌倉、室町時代を経て江戸時代に日本各地や街道の宿場町に登場した。古くから、山の中・海の側等、日本人は自然の中でお風呂を楽しんでいた。景色を眺めながら入浴出来ることや、入浴時に開放感を味わえること、また浴室内に熱がこもるようなことがないためのぼせにくいことなど様々な要因が挙げられる。そのため、多くの旅館、日帰り入浴施設は内湯だけでなく露天風呂も併設している。

3. イランの温泉の特徴と課題

古代よりイラン人は、病気を治したり、リラックスする目的で自然に湧出する温泉を利用してきた。イランにおける入浴の習慣はイスラム化以前より水による浄化という概念で行われており、今日までその風習が伝承されている。イランで科学的な温泉の研究は、1927年に開始され1928年に アベアリ (Abali) という温泉が最初に研究された。イランでは温泉がたくさんある。しかし適切な調査や管理を行っていないためまだ発見されていない温泉もある。管理については、温泉だけでなく、温泉の周辺も基本的には管理すべきことである。例えばサルエインというイランの有名な温泉の周辺では昔と変わらないままであり、普通の店がある。もしそれらの普通の店がバーザのような場所を作ったり、観光客向きのホテルとレストランを設置したりすれば、普通の町から温泉タウンに変わりその地域はイランでだけではなく世界中で有名な観光地として知られることができると考える。

イランの温泉が世界中でなぜ有名ではないのか、一つの理由としてはインターネットにイランの温泉に関する情報があまりないことである。つまりイランの温泉はインターネットを利用した広告がない。日本ではインターネットサイトで温泉の効能、温泉地へのアクセスや温泉の施設等の色々なサービスについて紹介している。しかしイランの温泉がインターネットサイトで、こういったサービスが行われていない。現在はインターネットの世界と言われている。皆色々なことをネットで探したり、購入したり、ホテルを予約したりしている。このような状況でありイランの温泉のことをあまりも知られていないのは当たり前のことである。

表3 イランと日本の温泉比較

項目	イラン	日本	備考
温泉の定義	温泉法により定められている。	温泉法により定められている。	
温泉地箇所数	100箇所(地質調査所)	91箇所(国民保養温泉地)	イランの温泉地箇所数に関する正確な情報がない
温泉の行政管理者	地質調査所と環境省	環境省	
温泉の品質維持	—	定期的に泉質検査を実施	イランの温泉の品質維持に関しては正確な情報がない
温泉の利用目的	療養, レジャー	療養, レジャー	
温泉利用者数	—	約890万人/年 ※環境省 URL より	イランの温泉利用者数に関する正確な情報がない
温泉地の情報発信	インターネット	インターネット、旅行会社、テレビコマーシャル等を通じて観光客に情報を発信	

出典：環境省国民保養温泉地 URL とイランの地質組織

(<http://www.env.go.jp/nature/onsen/docs/>) 2013/09/1

(<http://gcrir.ir/fa/contents/general/%D8%B9%D9%85%D9%88%D9%85%DB%8C.html>) 2013/09/1

今後のイランの温泉を観光開発するための戦略として以下のような点が考えられる：

- 温泉地の適切なレベルでのインフラ整備
- 衛生管理やマスメディアによる良いイメージ作り
- イランの観光スポットの書籍、記事、カタログや写真の公開
- 国際的な言語を満たすために訓練された人員
- 観光の分野における外部専門家の利用
- 増加する通信や道路の快適性や安全性の確保
- 温泉の周りで宿泊施設、飲食、スポーツやレクリエーションの場を作る（お湯に入る前に自分の好きなスポーツをやって、疲れた時はお湯に入る。疲れた時はお湯に入って、お酒を飲みながらリラックスすることなどは、非常に良いと考えられる。）
- 観光の分野で成功した国の経験の導入
- すべての季節で観光客を誘致するための適切な計画作り
- 観光地図や観光パンフレットに関するデータの整備

温泉観光の開発の最初のステップは 観光の分野で成功した国の経験を使用することである。例えば日本のパンフレットは色々特徴がある。

4. 日本の温泉観光開発の成功例

(1) 黒川温泉

ここでは、日本の温泉観光開発の成功事例として、黒川温泉の例をあげ、イランの今後の温泉観光開発に対する示唆を得たい。

黒川温泉は、熊本県の北東部、南小国町に位置し、阿蘇北側の山あいの閑静な環境にあり、筑後川上流にあたる田の原川に沿って旅館が立ち並ぶ。日田と竹田を結ぶ街道沿いに位置し、徳川時代は参勤交代の中継地にあたり、大名や旅人達が温泉に入り旅の疲れを癒したと言われている。また、温泉の歴史は古く、開湯については「首なし身代わり地藏」の伝説が残されている。殆どの旅館に趣向を凝らした露天風呂が整備され、入浴だけの利用も可能である。

黒川温泉の1981年当時の旅館数は14件であり療養型温泉地域として位置づけられていたことから、活気を失ったような雰囲気であった。しかし、現在の黒川温泉観光旅館協同組合は、24軒の旅館が加盟するに至っており、新たに10軒の旅館が開業するなど、黒川地域として地域活性化に成功している。「黒川温泉」の名称は2006年に地域団体商標として商標登録されている。成功のきっかけとなったのは、1986年に旅館組合

の組織を再構築し、年に1回の総会のほか、黒川温泉の将来について議論を交わすようになったことである。

黒川温泉が人気を誇っている一番の要因は、露天風呂が充実していることだ。黒川温泉の「露天風呂に対する思い」は他の温泉とは比較にならない様に感じる。露天風呂巡りで知られる黒川温泉だが、お湯のバリエーションだけでなく、お宿毎に露天風呂の異なる表情が楽しむこともできる入湯手形というものがある。この手形を購入すると、6ヶ月以内であれば露天風呂のある26軒の旅館の中から好きな温泉3カ所に入れる。入湯手形の安定的な収益により、旅館組合での独立事業をさらに展開できるようになったことが、黒川ブランド構築に大きく寄与している。

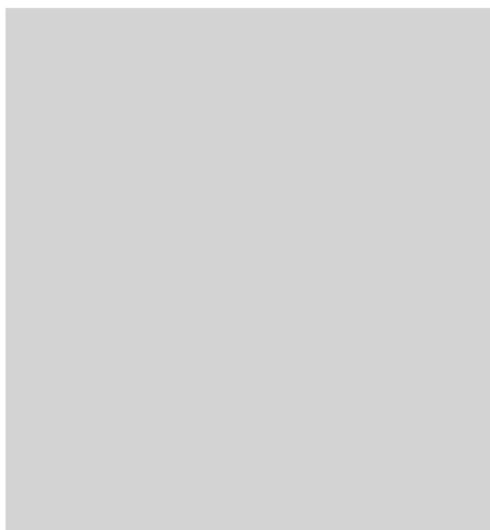


写真 入湯手形

黒川温泉がはじめての人には、「いこい旅館」の美人湯（女湯）、滝の湯（混浴）、「山あいの宿 山みず木」の幽谷の湯（混浴）、「お宿 のし湯」の野天風呂（男湯、女湯）が人気だ。黒川温泉で一番広いのが「やまびこ旅館」の仙人の湯で一度に50人は楽に入れるという広さである。この温泉はいずれも趣向をこらした湯ばかりだが、変わった露天風呂としては、「いこい旅館」の滝の湯（混浴）の打たせ湯は、かなり高い位置からお湯が落下してくる。「山の宿新明館」には、オーナーが3年半かけて、手掘りをしたという洞窟風呂（女湯）がある。

各旅館においても観光客に雰囲気を楽しんでもらえるよう様々な工夫が行われている。例えば誘導サインの設置であるが、要所に案内サインが設置されている場合もあれば、壁付型だけでなく、吊下型や突出型のものもある。客室記名サインは、①旅館内で全て統一されているもの、②離れや別館など各エリアで統一されているもの、③各部屋で異なるデ

デザインを施しているものの3パターンに分類できる。客室名称は山や植物の名前などが付けられており、前者のような3パターンに分類できる。露天風呂や客室が別棟の場合は屋外に誘導サインが設置されている。複数の場所への誘導をまとめて設置していることが多い。

また、外国人向けとして、トイレにピクトグラム（絵文字）を使用している旅館は18軒あり、使用箇所のほとんどがトイレである。トイレに英語表記のある旅館は7軒、英語、韓国語を用いている旅館は3軒あり、トイレに外国表記のある旅館は11軒となっている。外国語表記が1箇所でもある旅館は19軒あり、半数以上がトイレの表記に外国語を用いている。

入湯手形を持っている宿泊客が他の旅館の温泉に入るために移動する時は、旅館の浴衣で出かけることが一般的であり、寒い場合は丹前を羽織っていく。履物は下駄や草履、雪駄であり、これらも旅館のものを使用する。また、旅館では番傘等の貸し出しを行っている。これらの光景が温泉街に風情を添える。外湯へ出かける場合、着替えなどは信玄袋に入れるか、風呂敷に包むことが多い。最近では外出時の貴重品持参用に、旅館名入りの袋が準備されているところもある。

夕食後に、温泉街を歩いて楽しむには宿泊するのが最適である。宿泊客は、夕食後、旅館の大浴場に入った後に外に繰り出すのが最も一般的な楽しみ方となっている。

朝の出発前、外湯での朝湯や、みやげ物屋を見て歩くのもまた温泉旅行の楽しみの一つである。温泉地の土産物として温泉饅頭（薄皮饅頭や酒饅頭）は定番である。温泉の蒸気で蒸して調理しているものもあり、情緒を添えている。祭の屋台にも通じるものがあるので、買ってその場で食べることが温泉街としての雰囲気づくりに貢献する。旅行先の土産物を留守番をしている家族や近所に持って帰る習慣は既に過去のものになりつつあるため、土産を大量に買い込むお客は減っているものと思われる。一方、温泉の気分を家庭で味わうことのできる湯の花も多くの温泉地で見かけることができる。

（2）温泉観光の広告の効用—パンフレットの特徴と効果

以下では、日本の温泉観光を成功させたツールとして重要な広報に焦点を当てて論じることとする。

日本のパンフレットは、情報を伝えるために使われている。商品案内や会社案内などでも、写真は当然使われている。それも情報を伝えやすくするための一環であることが多く、あくまでも読んでもらうものという認識である。しかし最近、日本のパンフレットは写真を多用し、読むというよりは、見ても楽しいものになっている。商品画像の他にイメージ画像も多く使われ雰囲気も伝わりやすくなっている。形や折り畳み方に特徴のあるものが多くある。定型のように見えても一部にカットインが入っていたり、飛び出す絵本のような立体的な作りになっていたり、開くことに楽しみがある。また、バッグ型のようにになっているものもある。これはデザイン的にも面白いだけでなく、手にもって歩いてもらう

ことで、宣伝効果もあり良いアイデアだと思う。また形や折り畳み方で遊ぶことで、全面を一度に見ることができなくなり、「あれ、ここにも何か書いてある」と楽しみながら読み進めて行くことができる。



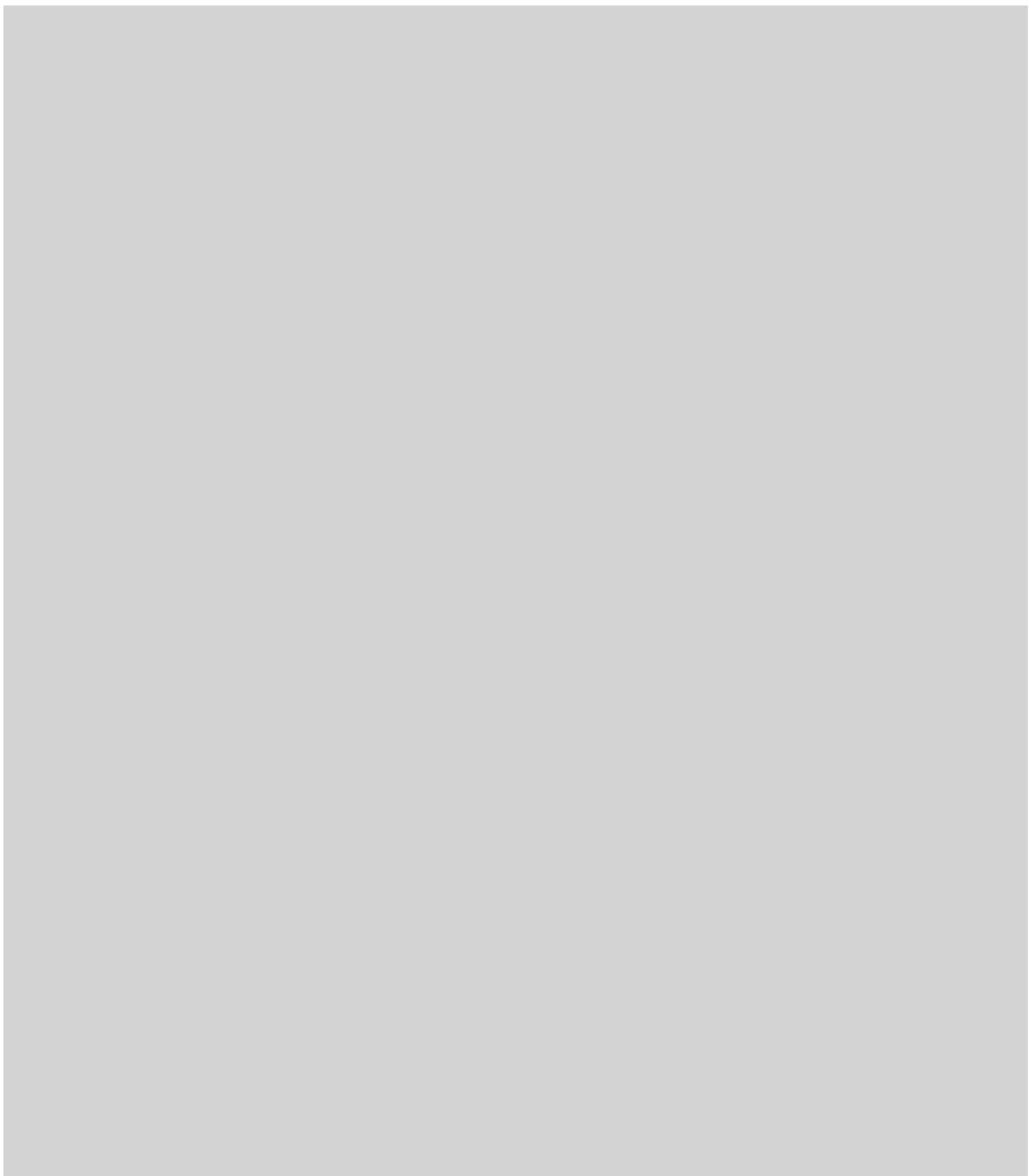
写真2 情報発信用のパンフレット

おわりに

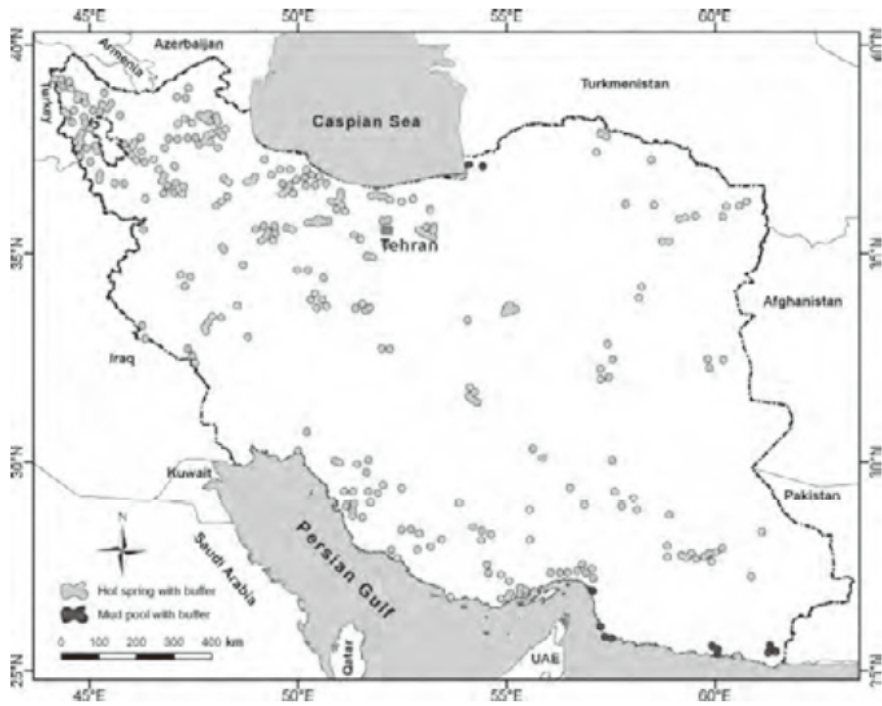
以上、本研究では日本とイランの温泉観光についてまとめてきた。日本は温泉観光の分野で成功した国であるため、日本の温泉観光に関する取り組み、例えば、パンフレットや温泉サイトの情報、温泉の施設整備状況からヒントを得て、イランの温泉観光産業を開発すれば、将来的にはイランも世界の有名な温泉国の一つになるかもしれない。現在、イランで手に入る資料・文献は、非常に不足しており、また観光温泉を専門とする研究者もない。今後は是非、引き続きに日本において、これまでの卒業生・留学生がほとんど研究してこなかった観光分野で、専門的な知識、手法を学び、日本とイランに還元できるように努力したい。

参考

- イランの温泉を求めて—ペルシア 1 万キロの旅 [単行本] (川崎 義巳 (2006/5))
- 高橋 一夫/大津 正和/吉田 順一 【編著】 『1 からの観光』 碩学舎、2010 年
- http://ci.nii.ac.jp/els/110009526155.pdf?id=ART0009982298&type=pdf&lang=en&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1375703217&cp=
- http://ci.nii.ac.jp/els/110008898189.pdf?id=ART0009856533&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1375788867&cp=
- http://ci.nii.ac.jp/els/110008092104.pdf?id=ART0009616445&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1376055295&cp=
- http://ci.nii.ac.jp/els/110006392872.pdf?id=ART0008392880&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1376105786&cp=
- <http://www.joy.hi-ho.ne.jp/ma0011/index.htm>
- http://ci.nii.ac.jp/els/110006614692.pdf?id=ART0008632829&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1376502278&cp=
- <http://www.ommk.net/rekishi.html>((日本の歴史))
- <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B8%A9%E6%B3%89> (温泉)
- <http://www.irandidar.com/irandidar/articles23.htm> (イランの温泉の調査)
- <http://www2.edarekolaradabil.sso.ir/web/edarekolaradabil/aboutprovince/a9> (イランの有名な温泉と観光)
- <http://www.lib.ynu.ac.jp/>
- <http://www.noormags.com/view/fa/articlepage/916384?sta=%D8%A2%D8%A8%20%D8%AF%D8%B1%D9%85%D8%A7%D9%86%DB%8C> (観光温泉治療)
- <http://www.noormags.com/view/fa/articlepage/890715?sta=%D8%B3%D8%B1%D8%B9%DB%8C%D9%86> (サルエイン温泉)
- <http://www.noormags.com/view/fa/articlepage/341593?sta=%D8%B3%D8%B1%D8%B9%DB%8C%D9%86> (サルエインの産業観光)
- <http://www.noormags.com/view/fa/articlepage/832793?sta=%DA%86%D8%B4%D9%85%D9%87%20%D8%A2%D8%A8%20%DA%AF%D8%B1%D9%85%20%D8%A7%DB%8C%D8%B1%D8%A7%D9%86> (医療観光)



イランの温泉分布



下呂温泉のパンフレット



下呂温泉

